

「令和5年度第2回多古町地域公共交通会議」 会議結果概要

○開催日時：令和5年11月28日（水） 13時30分～15時30分

○開催場所：多古町役場 3階 大会議室

○出席者：委員 24名

事務局（多古町企画政策課） 3名

多古町地域公共交通計画策定支援業務受託者（株式会社ケー・シー・エス） 2名

○次第

1. 開会

事務局より開会発言

2. 会長あいさつ

3. 議事録署名人について

会長より平山委員、太田委員を指名

4. 議題

議案第1号「多古町地域公共交通計画（素案）」について

会長

議案第1号「多古町地域公共交通計画（素案）」について、事務局より説明を求めます。

事務局

それでは、業務委託者の株式会社ケー・シー・エスより資料に基づき説明いたします。

ケー・シー・エス

資料に基づき説明

会長

ご意見がございましたらお願いいたします。

委員

12ページの観光来訪者数について、観光来訪者の移動手段が分かれば、追記してはどうか。また、道の駅多古について、来訪者70万人のうち、来訪目的が分かれば記載してはどうか。道の駅多古にピアリングをすることで把握できるのではないか。

20ページのデマンドタクシーの収支状況について、デマンドタクシーは利用が増えるほど、町の負

担額が増える構造になっている。この点について、この場で補足説明をした方が良いのではないか。

高校生アンケートについて、「通学利用者の獲得につながる設問を設ける」と説明があったが、具体的にはどの設問が該当するのかを教えてください。

41 ページの民生委員・児童委員アンケート調査結果について、移動手段として「家族や知人の送迎」とあるが、家族による送迎、知人による送迎の内訳が分かれば、参考に教えてください。

○事務局

観光来訪者の移動手段は、調査をしていない可能性が高い。

道の駅多古の来訪者数は、あじさい館のレジ通過数からの推計値となるため、来訪目的を把握することが難しい状況である。

デマンドタクシーについては、当初は運行台数 1 台で開始したが、利用拡大に伴い現在では 3 台体制としている。利用増加に応じた増車により運行委託費が増えるため、利用者数と費用が比例している状況である。

○ケー・シー・エス

高校生の通学利用者の獲得につながる設問としては、「バス利用のメリットのうち共感できるもの」を伺っている。結果としては、「重い荷物があっても移動がラク」、「悪天候時でも快適に移動できる」などに回答が多く集まっているため、今後の利用促進時にこれらの回答結果を活用していきたい。

家族送迎・知人による送迎について、今回は自身で運転しているのかそうでないのかを把握することを目的としていたため、家族送迎・知人による送迎の内訳までは把握していない。

○会長

他にご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

多古本線と栗源線については、地域間幹線系統補助を受けながら運行をされている。今後も補助を受けるためには、対象路線について利用促進等を行い、収支率を前年度比 1 % 以上の改善をさせることが求められている。そのため、計画書素案に記載がある利用促進策の展開が重要になると考えられる。

事業に「町内施設（商業・医療・観光等）との連携」があるが、国交省の補助事業である「共創モデル実証プロジェクト」を活用して、同様の取り組みを行っている事例があるため、参考にしようか。令和 4 年度に北海道江差町で実績があるようである。ぜひ、関東運輸局などと連携しながら、事業を推進しようか。

○事務局

人口減少もあり、収支率改善は難しい状況であると感じている。公共交通事業者をはじめ、行政や地域と一緒に事業推進していきたい。今後ともご指導ご協力をお願いしたい。

補助事業についても、今後も事業推進に応じてご教示いただきたい。

○会長

他にご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

多古町の公共交通について、危機感を持っている。アンケート調査でもあったように路線バス利用者割合が1.8%であり、ここまで低い数値は他の自治体ではあまり見ない。一部では、デマンドタクシーの中学生利用があるが、ほとんどのご家庭では、自家用車で通学支援をしている。こども園までは一括集中型で通園補助をしているが、学校に入るとそのような支援がなくなる。つまり、公共交通を利用しない子供たちが育っている。このような状況でモビリティマネジメントを実施しても自分事にならない。子供たちが大きくなって、多古町に定住しても公共交通を使わない生活が根付いてしまう。そのように考えると、今後、多古町で公共交通を維持することができるのかについて、大きな危機感がある。

今回、丁寧で緻密なアンケート調査を行っているため、これらの結果を踏まえて整理された目標等は、計画期間内で達成していく必要がある。それと並行して、教育における子供たちの移動手段を検討していく必要があると感じている。筑波大学の研究論文によると、公共交通を利用する子供の方が社会性が高くなるという研究結果も報告されている。多古町でも同様であるとは言い切れないが、公共交通を利用しないことで社会性を学ぶ場が少なくなってしまうことは問題であるとも考えられる。

多古町では小学校から高校までの通学を各家庭が自家用車でカバーしているため、子供たちの移動について、ぜひとも検討をお願いしたい。

また、デマンドタクシーの運行については、エリアの規模にもよるが、AIオンデマンドシステムを導入した方が効率的な運行になる可能性もあるため、検討をしてみてはどうかと思うので補足として申し上げます。

○会長

他にご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

施策の中に「路線バスの維持」について記載があるが、路線バスを定期利用している学生の方が非常に少ない状況である。今後も持続していきたいところではあるが、かなり厳しい状況であることは皆様にも知っていただきたい。

○委員

計画目標②の評価指標について、運行本数だけでなく、利用者数も指標にしてはどうか。加えて、事業について「路線バスの維持」についても重点事業に位置付けてはどうか。利用者数が一定以下になってしまうと国の補助を受けられず、路線バスが運行できなくなってしまうこともあるため、重視するべきであると考えられる。また、維持だけでなく「利用促進を図る」ということを記載した方が良いと考える。

「先進技術の研究」について、デジタル技術に特化して記載されているが、デジタル技術に限らず、公共交通に関する先進的な取り組みを対象に研究した方がよいのではないかと。

事業スケジュールについて、もう少し具体的に記載した方が良いのではないかと。スケジュールが曖昧であると本計画の評価検証時に困るのではないかと。

○会長

ありがとうございました。ご意見に対して、事務局から何かありますか。

○事務局

路線バス利用者数を評価指標に追加することについて、路線バス事業者から各路線の利用者数をご提供いただくことができれば、評価指標への追加を検討したい。

「路線バスの維持」は町としても重点事業に位置付けたいと考えており、バス事業者の厳しい状況等にも配慮しつつ検討したい。

先進技術の研究についても、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、修正を行いたい。

○ケー・シー・エス

事業スケジュールについては、本計画に書き込む際には関係者間の協議が必要であるため、時間を要するかもしれないが、可能な範囲で具体的に記載していきたい。

○会長

他にご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

多古町を運行する路線バスの利用者数について、詳細なデータは取れていない状況である。データが必要となる場合は、事業者と多古町で協力しながら調査などをしていきたい。

○会長

他にご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

デマンドタクシーのサービス水準について、今後サービスを拡大していくのか、現状維持とするのか、町の考えを教えてください。

○事務局

現在の利用者数をみると、増車していくことは難しいと考えている。まずは利用者を増やすための取り組みを進めていきたい。一部では利用の条件にそぐわない利用者の方もいると聞いているため、町民の皆様にもご理解いただきながら、より良いサービスとなるようにしていきたいと考えている。

○委員

デマンドタクシーに関連して、発言をしたい。SDGsでは公共交通を推進する上で、「女性・子ども・高齢者・障がい者」の移動を支える必要性が記載されている。東久留米市では、デマンドタクシーの利用対象者を妊産婦や子育て世帯まで拡大しながら、利用者増加につなげた例がある。事業の中にも「デマンドタクシー利用対象者の拡大」という文言があるため、参考にしてはどうか。

○会長

様々なご意見ありがとうございました。ご意見いただいた箇所を修正させていただきますが、本日の素案の承認については、皆様からご異議ございませんでしょうか。

<異議なし>

会長

異議なしとお声をいただきました。多古町地域公共交通計画素案につきましては、承認することと決定いたします。

5. その他

事務局より今後のスケジュールについて説明

6. 閉会

上記会議録を閲し、その内容に相違がないことを認め、ここに署名する

多古町地域公共交通会議委員

太田 治彦

平山 孝治